

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果と今後の方策（篠島小6年生）

☆学力調査について ○よかった点 △課題のある点

国語

- 「目的や意図に応じ、資料を使って話す」問題がよくできていました。
- 「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う」問題がよくできていました。読書タイムの取り組みにより、語彙力がついたことが表れていると思います。
- △「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける」、「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する」問題の正答率が低いことが分かりました。目的に応じて必要な情報を文章から見つけさせたり、要点を捉えて文章で表現させたりする指導を授業に取り入れていきたいと思います。
- △「文の中における修飾と被修飾との関係を捉える」問題を苦手とする児童が多くいました。教科書本文の中で主語、述語等の関係に着目させる機会を授業で増やしていきたいと思います。

算数

- 「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる」問題がよくできていました。
- △「速さを求める除法の式と商の意味の理解」については理解が不十分な児童もいるため、除法についての考え方を含めて、授業で詳しく説明していきたいと思います。
- 「条件に合う時刻を求めることができる」、「速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる」問題がよくできていました。
- 「棒グラフから、数量を読み取ることができる」、「棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる」問題がよくできていました。
- △「複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに注目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる」問題の正答率の低いことが分かりました。図形の特徴を捉えさせる問題や、式が意味することを言葉で説明させる問題に取り組みせていきたいと思います。

☆生活習慣や学習環境に関する調査について

- ・「友達と協力するのは楽しい」「地域の行事に参加している」に対してほぼすべての児童が肯定的に回答するなど、協調性や社交性の高いことが分かりました。
- ・「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができるか」に対して、半数の児童が否定的な回答でした。新聞記事についての意見交換を行う『コミュニケーションタイム』を継続して行い、自分の考えを自信をもって伝えられるよう指導します。
- ・多くの児童が「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」「人の役に立つ人間になりたい」と答える一方で、「自分には、よいところがある」に対して約半数の児童が否定的な回答でした。学校生活における児童のがんばりを認め、ありのままを受け止めることで、児童の自己肯定感を高めていきたいと思います。
- ・1日当たりの勉強時間については、平日・休日共に1時間未満と答えた児童が過半数を占めました。自主学習ノート等への取組を工夫しながら、主体的に学ぶ姿勢を育てていきます。